

診療科目

心臓血管外科

専門医研修指導医

責任者： 富永隆治 教授
 実務者： 塩川祐一准教授 西田誉浩講師
 田ノ上禎久講師 帯刀英樹助教
 園田拓道助教 大石恭久助教
 神尾明君助教
 H26年度 後期専門研修医 10名



取得可能な認定医・専門医

全員が取得できる資格： 外科専門医、心臓血管外科専門医
 希望者が取得できる資格： ステンントグラフト実施医、指導医（胸部、腹部）、循環器専門医

専門医研修システム

心臓血管外科専門医コースで、8年間の研修となります。

外科専門医獲得に必要な症例経験を、初期研修中にほぼ終了していることを前提とします。九州大学病院および関連施設で心臓外科診療の基本を習得した上で、心臓血管外科専門医獲得を目指し、4から5年間手術診療に従事します。その間、当科の特徴である幅広い疾患を経験することにより、将来自分の進むべき道を見つけます。外科専門医獲得条件が満たされていない場合は、一般外科での研修が追加されます。外科専門医を取得後に心臓血管外科専門医を申請します。その後大学院にて基礎および臨床研究に従事し、学位取得を目指します。学位取得後、成人心臓病、小児心臓病、大血管など、各人の能力、個性に応じて専門性を発揮していくこととなります。

診療科の活動 / PR

九州大学病院の心臓血管外科は、一流の臨床医を育てることを目的とし、多様な心臓、大血管疾患に関するすべての分野において最新かつ先進的な手術治療に取り組む、心臓、大血管手術専門の診療科です。先天性心疾患、冠動脈バイパス術、弁膜症手術（弁形成、弁置換術）、胸部や腹部大動脈瘤手術等の定型的手術から、ステントグラフト内挿術、経カテーテル的大動脈弁置換術、補助人工心臓装着、心臓移植等の高度先進治療まで多様な手術を行うことができる九州随一の施設です。

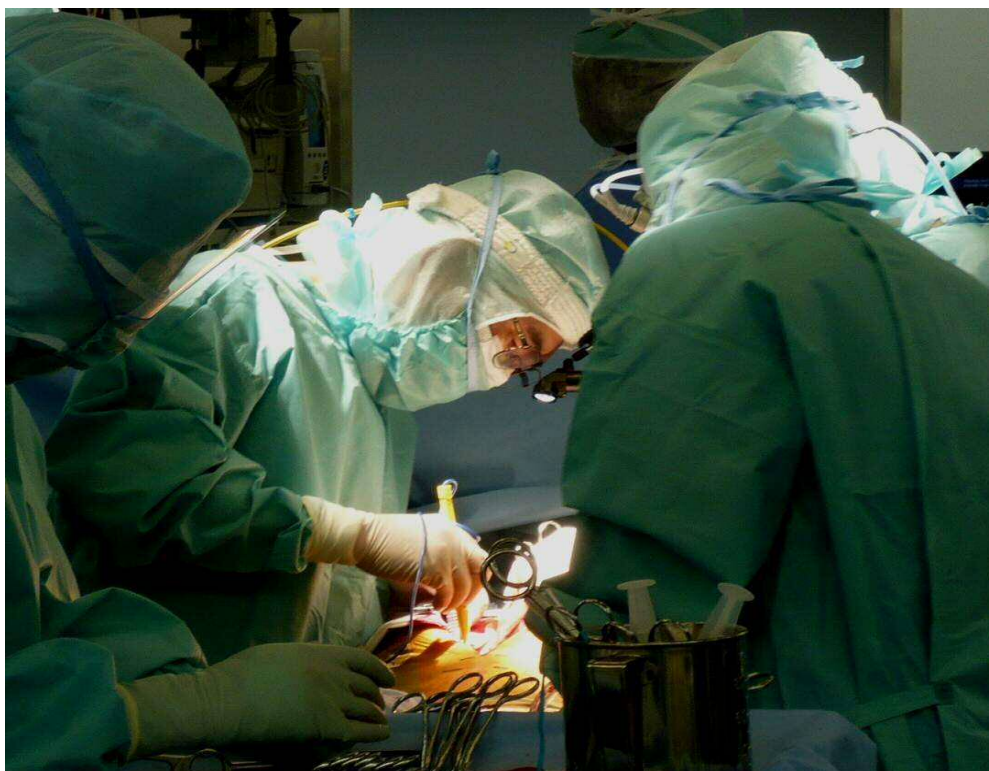
先天性心疾患においては、生後間もない新生児から乳幼児の手術に加え、再手術を含めた成人期までの手術を行っています。小児期に心臓手術を受けられた方に対するケアの重要性から、トランジショナルケア外来が立ち上げられたことにより、この分野の発展が期待されます。

弁膜症手術は長い歴史に支えられて、複合臓器障害を合併した重症例、複数回再手術症例や感染性心内膜炎などの重症手術を数多く行っています。また、人口の高齢化に伴い大動脈弁狭窄症患者が増加していますが、従来の弁置換術には耐術不可能な患者に対して、侵襲性の低い経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)を、保険適応と同時に導入しすでに多くの手術を行いました。現在広い地域から紹介いただいています。

大動脈疾患に対しては、L字切開法を用いた広範囲胸部大動脈瘤手術や胸腹部大動脈瘤手術を得意分野とし、侵襲の少ないステントグラフト手術も積極的に行っています。ステントグラフトの低侵襲性を生かしつつ、これまで培って来た人工血管置換術とを組み合わせることによるhybrid手術を行うことで、大動脈疾患の治療成績向上が図られています。このhybrid手術を行えるのは、両方の手段を有する当科の強みです。

九州で唯一の心臓移植認定施設、植込型補助人工心臓実施施設として重症心不全症例に対し、補助人工心臓装着から心臓移植まで行っています。埋込型補助人工心臓認定施設の先駆けとして、九州全体の重症心不全治療に貢献しています。

日本で有数の症例数を誇る施設を含む、多くの心臓手術関連病院を有しているため、新生児から高齢者まで、あらゆる種類の修練を積むことが可能です。これまでの歴史で培って来た技術や知識を伝え、発展させていくことが使命であると考えています。心臓血管外科に情熱を燃やし、まじめに取り組む若者を全力でサポートします。道のりは決して平坦ではありませんが、大きな夢に向かって、ともに頑張っていきたいと思います。



連絡先

電話：092-642-5557 F A X：092-642-5566

E-mail：yooo@heart.med.kyushu-u.ac.jp

担当者： 医局長 大石恭久

診療科HP：<http://cs1.med.kyushu-u.ac.jp/>